

山が教えてくれたこと① 「身近で素朴な自然」

以前は旭川市内から通勤していましたが、一年少し前、東川町に引っ越してきました。大雪山が近くなりうれしいのはもちろんなのですが、登山トレーニングのために町内をランニングするのが日課となり、その時に会う身近な自然の小さな変化や発見をととも楽しんでます。

雪解けとともに路肩にフキノトウが芽生え、田んぼには水が張り、稲が植まりました。広い水田に一列に並ぶ稲は壮観で、農家さんの仕事に感謝をしながら新米をいただくことが出来ると思うと、今からとても楽しみです。

水田を通り過ぎると、忠別川沿いの河川敷に入ります。勢いのある水量と白濁した水の色は雪解けの証拠。濁った色でさえも「これから夏が来るんだな」と浮き足立つ気持ちにさせてくれます。

河川敷の林には、町中とは思えないほど種類の野鳥が住んでいて、いつも大声援を送ってくれます。もつれていた足も軽快な足取りとなる一番のお気に入りのスポットです。

私が走る時間は、人間よりもキタキツネに出会うこ



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

とが多いです。人間を警戒しているキタキツネに遭遇すると、野生を失っていないことにホッと、「どうかそのまま狩りをしてたくましく生きていって」といつも願います。

ふと気付けば、河川敷は野鳥の声よりもカエルの合唱のボリュームが大きくなってきました。この声を聞くと安心するのは農耕民族である日本人の遺伝子なのでしょう。

住宅街に戻ってきました。日が沈んでからも熱心に自慢のお庭の手入れをしているガーディナーの姿を目にします。あちこちから晩ご飯のいい匂いもしてきました。「今晚はあれを作ろう」とインスピレーションを受けて、町内を大きく一周し、家に到着です。

雪解け水が川に注ぎ、田畑を潤していること。野鳥の鳴き声やカエルの合唱、木の葉のそよ音や川のせせらぎが心を温めてくれること。車の排気ガスの臭いがしない綺麗な空気や水田風景。山の上だけでなく、身近で素朴な自然の中にも、大事なことがあることを教えてくれたのは大雪山です。

環境省東川自然保護官事務所アクティブ・レンジャー
渡邊 あゆみ



メープルシロップの昔ばなし

東川町国際交流員 (CIR) ソエ

カナダでもっとも有名な輸出品はメープルシロップです。メープルシロップといえば、カナダが最初に出てきますが、昔はアメリカの方が多く作られていたことをご存知ですか？

18世紀の産業革命やカナダの積極的な投資によって、のちにカナダの一大産業となりました。カナダでは国内のどこでも作る事が出来るというイメージがありますが、気候条件によって主にカナダの南東部で作られています。約72%のメープルシロップは、私の出身、ケベック州です。

メープルシロップは神様が人間に授けたものといわれています。カナダの先住民が発見しました。どのように見つけたかはさまざまな説がありますが、その一つにこんな話があります。

『カエデの木から直接



甘いシロップが出てきたせいで人々が働かなくなり、その怠けた姿を見た神様が怒ってその液を薄くしてしまいました。それからシロップは努力して作らなければならぬものになりました。

シロップを採取する際に欠かせない器具で、木に挿し込むスピゴットという器具があります。

先住民たちは幹に開けた穴に細い枝を差し込んで樹液を採っていました。たが、ヨーロッパの移民が来てからは、協力しながら作り方を改善していききました。

スピゴットは木製になり、その後長く使われました。19世紀には金属に、そして最近ではプラスチックでできたものが使われています。メープルシロップ作りに必要なそのほかの器具も同様に改善されていきました。

将来はどんな変化があるのでしょうか。あるアメリカの研究者によると、苗木から樹液を取れるようになるかもしれないとのこと。森ではなく、畑からメープルシロップを作れるそうです。いつかこの甘いシロップが安くなったらいいいですね！